

# 高品質で収量性に優れる大豆品種「里のほほえみ」

石川県農林総合研究センター 農業試験場

## 1. 背景・目的

石川県大豆生産は、現在、「エンレイ」を中心に作付けが行われている。しかし、近年は、子実の小粒化としわ粒の発生により収量・品質が低下している。

そこで、①エンレイより子実が大きく、収量が多く、②しわ粒の発生が少なく品質が良いことを基準として、「奨励品種決定調査」の結果に基づき、「里のほほえみ」を有望品種として選定した。

## 2. 技術のポイント

平成18年から平成24年までの奨励品種決定調査の結果から、里のほほえみは以下のような特徴を有しており、有望な品種であるとして選定した。

県内全域のエンレイ栽培地帯に適用することが可能である。

- (1) 里のほほえみは、エンレイと比較して百粒重（子実の重さを表す数値）が重く、子実収量が多い（表）。
- (2) エンレイと比較して、大粒比率（粒の径が7.9mm以上の子実の割合）が高く（図1）、粒が大きく、しわ粒の発生が少ない（表）。
- (3) 最下着莢節位（地面から莢が実っている節までの高さ）が高く（図2）、また成熟期（収穫時期）以降の裂莢（収穫前に莢がはじけて子実が落ちてしまうこと）が少ないため、コンバイン収穫時に収穫ロスが少ない。
- (4) 開花期はエンレイより1～2日遅く、成熟期は3～5日遅い（表）。

表 奨励品種決定調査成績(H18～24年平均)

播種期	播種期 (月/日)	品種名	開花期 (月/日)	成熟期 (月/日)	子実重 (kg/10a)	子実重 対標比 (%)	百粒重 (g)	大粒比率 <sup>※2</sup> (%)	被害粒率 <sup>※3</sup> しわ粒 (%)
標播	6/2	里のほほえみ	7/22	10/18	330	105	38.5	95.4	1.5
		エンレイ	7/20	10/15	313	100	33.8	75.7	10.2
晩播 <sup>※1</sup>	6/23	里のほほえみ	8/3	10/23	293	101	39.3	94.0	4.8
		エンレイ	8/3	10/18	291	100	32.8	60.1	16.0

※1:晩播平均はH20～24年の5ヶ年平均※2:大粒比率はH22～24の3ヶ年平均※3:被害粒発生率はH23～24年の2ヶ年平均

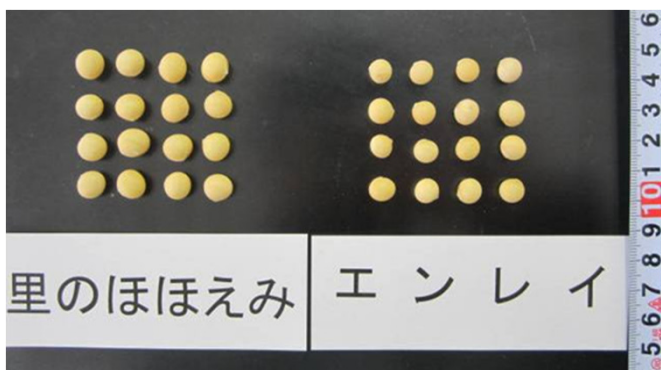


図1 子実粒大の違い

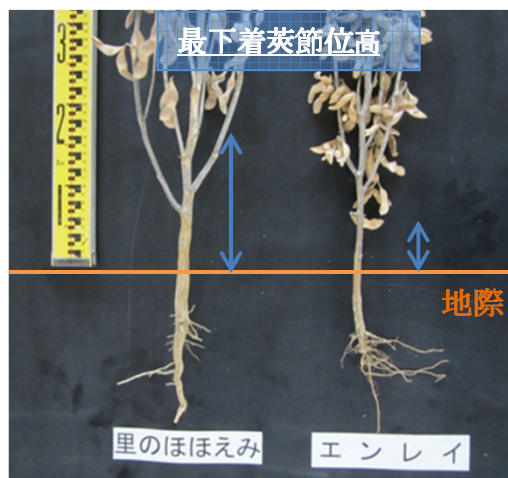


図2 最下着莢節位高の違い